87　日本近代医学の魁オットー・モーニッケの多彩な業績

相川　忠臣
日本赤十字社長崎原爆病院

オットー G.J. モーニッケは1814年に生まれ今年生誕二百年を迎える．彼は牛痘を普及し，聴診器やクロロホルム麻酔の情報をもたらした日本近代医学の魁であるが，他に多彩な業績がある．

1．日本の医学への貢献．牛痘の普及について：蘭領インド医学雑誌1巻の日本医療報告やレフィソーン商館長の『日本雑纂』に転載されたジャワ新聞（1850.1.5）から，1849年8月から開明的な領主達の協力で九州（琉球諸島を含む）及びその以遠への普及と1850年春の江戸参府の際見聞した大坂，都，江戸での普及状況がわかる．1851年のオランダ週刊医学雑誌にジャワ新聞（1851.2.22）の彼の牛痘普及記事が転載されているに気付いた．その中に次の興味深い記載があった．①都の医師SEKINGは牛痘を牝牛に伝染させることに成功した．このことは医務局長（ボッシュ）が日本へ送った牛痘苗が清潔で，良質であることを証明していると書いている．ポンペが回帰牛痘苗を作成するより早く日本人医師が行っていたことになる．②朝鮮半島にも牛痘苗の普及を試みたが，半島から応答はなかった．興味深い今後の検討課題である．

肺や心臓の診断に欠かせない聴診器をもたらした功績は大きい．レンネックの古い型と新型の2種類を持参，前者は吉雄圭斎へ与えられ長崎大学にある．後者は品川梅村が模造し，その形状と使用法が杉田成卿の『済生備考』にある．楢林宗建の『磨尼欽對談録』にあるようにクロロホルム，ストリキニーネ，モルヒネの使用法，導水術，四肢切断を教え，宗建の依頼で蘭船医が著した痢疾の治法を自らの解剖経験から阿片の弊害を説く等批判し，一部評価している．

2．日本人の多面的研究．著書Die Japaner（1872）以外に，日本人の体格や非人の制の報告があり，Globus誌に日本の幽霊妖怪話や日本人の知能と道徳心についての報告がある．

3．文学．父ゴトリーフ C.F. モーニッケは神学博士であり，アイスランドを含む北欧の伝承文学やツュンベリーなど北欧の偉人の伝記で高名である．その頃コロンブス以前に北欧のバイキングが新大陸アメリカを発見したことを証明する考古学や伝承の研究がデンマークで進行した．その主役Rafnはゴトリーフとともにアイスランドと北欧の間にあるファロー諸島の伝承を研究している．敬慕する父の逝去に当り，遺作のLessingiana（偉人の伝記集）やベストセラーとなったFrithjofの逸話の5版を出した．一方英国W. Beckfordのアラビアの物語Vathekを独訳した．

4．博物学．ベルリン大学卒業時のThesisは動物の性本能の比較であり，高名な医師である母方の祖父に献じている．医師となり，博物学者となったのは父と祖父の影響であろう．父の逝去後蘭領インド軍に入り，東南アジア諸島の動植物の博物学，類人猿や人類学の研究に没頭し，退官後，纏めて多くの本を出版した．進化論のA.R. ウォレスは甲虫ハナムグリの新種発見の競争相手であった．ウォーレスはアンボイナのモーニッケの元に滞在，彼の人柄の良さや魚類の大家P. ブレーケルの膨大な標本について『マレー諸島』に書いている．彼が宗建にクロロホルム麻酔を具体的に説明できたのは，ブレーケルが1848年前半にクロロホルム麻酔下で下肢切断に成功したからであろう．彼がブレーケルに送った日本の新種魚にタツノオトシゴHippocampus *mohnikei, Blkr.*，カワハギMonacanthus *koumuki Blkr.* がある．

彼は日本の近代医学の魁であると共に，出島の偉大な博物学者の系譜に書き加えるべき人である．